

Passport

2019 SPRING Vol.41

男らしさ、女らしさにとられず、自分らしく暮らせる社会。お互いに認め合い、個性と能力を發揮できる佐賀市の実現をめざしましょう。



山田亮さん

楽家事を楽しもう!



最終回!一言メッセージ表彰式



はじめてのLGBT



女性議員にきいてみました!



働き方改革 待たなし!



日本女性会議報告

CONTENTS

- ・第14回一言メッセージ入賞作品 P1~2
- ・女・男フォーラム P3
- ・人権ふれあい講演会 P4
- ・女性の活躍推進セミナー P5
- ・ワーク・ライフ・バランス推進研修会公開セミナー P6
- ・日本女性会議2018 in 金沢 P7

第14回 一言メッセージ入賞作品

主催：佐賀市男女共同参画ネットワーク

4月14日の「パートナーデー」に寄せて、家庭、職場、学校、地域などで抱く「感謝の気持ち」や男女共同参画の視点から「おやっと思うこと」「ちょっと気になるなあという思い」を表したメッセージを募集しました。最終回を迎えた今回は、3,849点の応募がありました。入賞された作品を紹介します。

受賞者のみなさん、おめでとうございます。

(学年は平成30年度現在)



▲表彰式の様子



**ばあちゃんのエプロン姿は見慣れてるから
じいちゃんとのペアルックを見たい。**

祖父へ 成章中3年 なかしま のあ
中島 望愛

男女共同は[若い世代]で当たり前になっているけど、家事をするおばあちゃんを見て、そう言えば上の世代ではあまり進んでいないと思った。その気持ちを素直に書きました。



**子育て1年生の私達。喧嘩増えたね。
でも「ありがとう」はもっと増えたね。**

新米パパの夫へ よしだ のぞみ
吉田 希

育児休暇から職場復帰してバタバタで喧嘩ばかりの毎日ですが、感謝することの大切さを感じています。まだまだ未熟な2人ですが、がんばろうという気持ちで書きました。



勸興小学校 高木瀬小学校 金立小学校 昭栄中学校 龍谷高等学校

一言メッセージ 最終回を終えて

～佐賀市男女共同参画ネットワーク(主催者)の皆さんからのメッセージ～

平成31年2月2日、佐賀市立図書館で、14年間続けて来ました「一言メッセージ」の最後の表彰式を行いました。

長い間ささえてくださった協賛企業の皆様方、たくさんの作品を、時間をかけ意見を交わしながら審査をしてくださった審査員の皆様、そして何より毎年応募して下さった皆様のおかげで続けてこられた事業です。ご指導くださった各学校の先生方にもこの場を借りてお礼を申し上げますとともに、すべての皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

これからも「4.14パートナーデー」が身近な方への感謝や思いやりの心を伝える日として続いていくことを期待しております。

佐賀市男女共同参画ネットワーク(結い)会員一同



こども・高校生の部

味の素賞

「いっぱい食べんしゃい。」両親の作るご飯は、栄養も愛情もたっぷり詰まっている。
お父さんお母さんへ 成章中 2年 山田 夏葉

いしむら高木瀬店賞

父の研究室も学生の目もキラキラしていたよ。私も将来父みたいになりたいな。
父へ 金立小 6年 上野 茉絢

ガラス工房ダンダン賞

意見って合わせなきゃいけませんか？ 反対したからって仲間外れにしないで。
友達へ 勸興小 6年 前迫 綾音

ガラス工房ダンダン賞

女の子らしくなくてもいい。男の子らしくなくてもいい。私は、私らしく生きる。
クラスのみんなへ 佐大附属小 5年 百武ふわり

北島マルポー口賞

あいさつは、性別、歳関係なくみんなを笑顔にしてくれることを学んだよ！
地域のみなさんへ 城西中 1年 藤井美咲姫

北島マルポー口賞

相手がいやがることはしない。自分がされてうれしいことを周りの人にしよう。
みなさんへ 赤松小 6年 黒田 琉斗

九州佐賀国際空港賞

朝、わらってバイバイする小さな手は、ぼくを元気にしてくれる。おすすりだ。
おとうとへ 春日小 2年 江口 蒼宙

佐賀玉屋賞

父、母、弟それぞれに役割があり一つ崩れるとみんな崩れる。誰もが大切な存在。
家族へ 成章中 3年 檀上 哲史

のり道楽賞

奥さんのために、とってみようよ、育休！ とったらきつと、世界が変わる。
働く男性のみなさんへ 佐大附属中 1年 田中 千裕

ぶんぶんテレビ賞

遊ぶときは男の子だけでなく男女で遊ぼうよ。そしたら倍楽しくなるから。
クラスのみんなへ 春日小 4年 服巻 愛海

「道の駅」大和そよかぜ館賞

「気にしなくていいよ！」その一言で救われる。僕も言えるようになりたいな。
友人へ 三瀬中 3年 柴田 啓

村岡屋賞

「女の子だから、お姉ちゃんでしょ」と一度も言わず育ててくれてありがとう。
お母さんへ 城西中 1年 中野 隼

村岡屋賞

「間違えてもOK！」その一言で手を挙げた。勇気をもらった。先生いつもありがとう。
片淵綾子先生へ 赤松小 6年 庄野 心晴

ゆにおん賞

不器用だけど一生懸命家事を手伝う姿、陰で努力してる事、全部知ってるよ。
お父さんへ 龍谷中 2年 豊増 志穂

橋野医院賞

父の卵焼き。母のおにぎり。いつもおいしい2人の料理ありがとう。
お弁当を二人で作ってくれる両親へ 牛津高 2年 小川 蓮

二葉賞

寒い時おじいちゃんを作る温かい豚汁最高だよ。元気が出る豚汁をありがとう。
おじいさんへ 龍谷高 2年 今泉希美香

大人の部

藍染未来工房賞

息子らに将来は家事も当たり前と育ててきたが 今だ独身の息子です。
息子へ 武野 裕子

板前割烹香光賞

「ありがとう」小さな事でも、いつでも言う夫 ありがとう
夫へ 國平 由香

板前割烹香光賞

月、金の茶わん洗いはタッチして、私新聞見えています。
クニさんへ 野田えつ子

佐賀花市場賞

定年退職、身近に迫る健康寿命。家庭のパートナーから遊びのパートナーへ育成中！
定年退職間近の夫の妻へ 荒木 明光

サガ・ピネガー賞

こっそり部屋で脳トレドリルを頑張っていること知ってるよ。元気で長生きしてね。
父へ 溝田 理恵

サガン鳥栖賞

たかが、されど。ボールの行方に一喜一憂する私たちへの、一週間の話題提供に感謝。
サガンブルーを身にまとう戦士たち(サガン鳥栖)へ 馬渡 幸弘
JAさが中部地区賞
まじムカつくって言われても、ずっと母ちゃんはあなたの応援団長。
受験生の息子へ 江口 昌子

晴寿園賞

掃除当番上司のホウキに恐縮しつつもイスを下げ
職場の男性上司へ 高柳 栄子

肥前びどろ賞

カベを作っていたのは、こっち側。君たちの一緒にチャレンジする姿にカベはなし!!
クラスの子どもたちへ 立石 耕一

古湯温泉鶴霊泉賞

子供達が全て家を出た。いるのはあなたと犬。さあ一緒に散歩しよう。
定年後契約社員で働いている夫へ 仲村 里子

ホテルニューオータニ佐賀賞

福祉で学びし人の目を見て話す大切さ。久しぶりに見つめあってみようか…
妻へ 鶴 利邦

森の香菖蒲ご膳賞

グチを笑いにかえ、そんなもんかと安心させてくれる仲間。最高です。
友人へ 末次 要子

大和酒造賞

生まれてきてくれて、産んでくれてありがとう。パパからの最初の手紙です。
先月生まれた娘と妻へ 江口 将史

理研農産化工賞

縮こまらんでよかよ、楽しんだら、よかとよ。一生懸命生きてきたこと知ってます 母さん
89歳の義母へ 釘本 節子

理研農産化工賞

息子からの唐突な独り暮らし宣言に心配の涙。「ありがとう。」を残してくれて嬉し涙。
息子へ 杉町 雅子

結い賞(佳作)

- | | | | |
|---------|-------|---------|-------|
| 北川副小 1年 | 能塚 春人 | 鍋島小 5年 | 秀坂 祐亮 |
| 春日小 3年 | 大石 莉子 | 久保泉小 5年 | 藤田 咲良 |
| 神野小 4年 | 堤 瑛太 | 南川副小 6年 | 西久保賢生 |
| 開成小 4年 | 村山 新太 | 昭栄中 2年 | 峯 愛莉 |
| 北山小 4年 | 柴田 望都 | 城南中 3年 | 松尾 拓磨 |
| 嘉瀬小 5年 | 西川 怜音 | 北山中 3年 | 江口 万結 |

4.14 パートナーデー



パートナーデーは、性別や年齢にかかわらず、家庭、職場、学校、地域などでお世話になっている人に、感謝の気持ちを伝える日です。

平成30年度 ^{ひと}女・^{ひと}男フォーラム

楽家事で楽しもう!! やってみよう家事シェア



■開催日:平成30年11月11日(日)
■会場:ほほえみ館

第1部 基調講演

テーマ:家事シェアで家族が変わる!今、家事シェアが必要な本当の理由

やま だ りょう
講師: **山田 亮**さん
(家事ジャーナリスト)



第1部の講演では参加者に語りながら楽しくお話しいただきました。内容を紹介します。

皆さん、家事はお好きですか?主夫で家事ジャーナリストである僕も、楽しいなという日もあるし、しんどい日もあります。子どもが1歳の頃には育児ノイローゼにもなりました。それをきっかけに、産後3週間で現場復帰した「かずこはん(妻)」が休暇をとって、昼間の子どもの面倒を見てくれました。子育ての大変さを夫婦で共有することができ、妻から「大変やったね」と言われたことで、自分のモヤモヤがずっと消えていきました。ズバリ「家事は楽しい生活のための手段」です。きれいな家で生活することを目的にすると無理が出てくる。生活していれば汚れます。部屋が散らかっていてもいいじゃない、レトルトや惣菜や外食でもいいじゃない、その代わり食卓には笑顔がある、会話があることを大事にしよう。そう思うことにしました。

そのためには楽家事。これは家事の省力化・共同化のことです。共働きがあるのなら共家事があってもいいと思います。愛媛県が実施した調査によると、夫婦一緒に老後を迎えると、夫の死亡リスクは小さくなり、妻の死亡リスクが大きくなるそうです。ただし、夫が身の回りのことを自分でできる「**自事**」ができると、妻の死亡リスクは上がりません。家事ではなく自事。家事ももちろんよいのですが、まずは自分のことは自分でしましょう。基本は自事ですから、やってもらって当たり前ではないのです。感謝の気持ちと思いやりを込めて「**ありがとう**」と言っただけであれば、それだけで家事ストレスは減ります。それが共家事の大切な要素です。男女共同参画です。男女分担参画ではありません。現代は家族で共同することがめっきり減りました。日常生活を共同することって家事ぐらいしかありません。家事シェアが必要な理由というのは、あえて共同する機会を作らないと、家族がバラバラのままになってしまうからではないでしょうか。大変さをわかってくれる家族がいるというのがこれからの時代大きな支えになると思います。

第2部 ワークショップ

テーマ: ^{らく}ここからはじめる ^{かじ}楽家事&家事シェア (超実践編)
楽だからシェアできる、シェアするから楽になる



第2部では、引き続き山田亮さんをコーディネーターに、参加者から質問のあった家事に関する悩み「献立をマンネリ化させないコツ」「油污れに効果的な掃除方法」「家事を手早くするための秘訣」についてアドバイスしていただきました。次に、4~6人のグループで「家事シェアできない理由や事情」を話し合いました。現在家事をしている側からは「家族の帰宅時間がバラバラ」「気になる部分が違う」「夫が料理をしない主義だから」「自分でやらなくてはいけないという意識がない」「説明してシェアするよりも、自分でやったほうが早い」「家事代行に頼むには気が引ける」といった意見が出ました。逆に、家事をしていない側からは「教えてもらっていないから」「仕上がりに文句を言われるから」といった意見が出ました。これらに対して山田さんは「家事シェアのためには、何をどの程度やってほしいのかを伝えるのが大変。完成形を写真に残す、具体的に数を伝えるなど、『アイデア2倍、手間半分』を合言葉に、各家庭で仲良く家事シェアを進めてほしい」とメッセージを送られました。



【参加者の声】

- ・夫婦のコミュニケーション(対話)が大事なことがとてもわかりました。思いやり、ありがとうのはじける家庭が増えることが社会を明るくすることでしょう。
- ・ほめる気持ちで聞くことはあまりなかったと痛感しました。よく話を聞いてほめるようにしようと思いました。これで家事ストレスも軽減され、コミュニケーションもうまく取れるようになればと思います。

【取材を終えて】

夫婦がお互い共同し合っ共家事を行うことが夫婦の絆・家族の絆を作り上げていくものだとわれ、改めて夫婦のコミュニケーションの大事さを学び今後につなげていきたいと感じました。 今町 真由美

佐賀市人権ふれあい講演会2018

はじめてのLGBT
～性の多様性と人権について～

■開催日：平成30年11月23日(金・祝)

■会場：メートプラザ佐賀

12月4日から10日までの人権週間を前に、佐賀市では毎年、人権尊重の意識を高めることを目的に人権ふれあい講演会を開催しています。今回は、LGBTをテーマに取り上げ、トランスジェンダー活動家の杉山文野さんを講師にお招きしました。満席の400人もの方々にご参加いただき、性の多様性についての理解を深めてもらいました。

【講師】

すぎやま

ふみの

杉山 文野さん

トランスジェンダー活動家
株式会社ニューキャンパス代表取締役

フェンシング元女子日本代表。日本最大のプライドパレードである特定非営利活動法人東京レインボープライド共同代表理事。日本初となる渋谷区・同性パートナーシップ条例制定に関わり、渋谷区男女平等・多様性社会推進会議委員を務める。全国各地での講演会やテレビ番組で活躍中。



【自己紹介】

「こう見えて、セーラー服とルーズソックスを履いて女子高に通っていたんです。」と明るく話す杉山さん。外では明るく振舞いながらも、自分の体に対する強い違和感があることを誰にも言うてはいけないう思いつけて過ぎた幼少期。高校生の時に初めて心と体の性が一致しないトランスジェンダーであることを、親友にカミングアウトして以来、自分のセクシュアリティをオープンにし始めたとのこと。

さらに、乙武洋匡さんの勧めで本を出版後は、杉山さん自身が“性同一性障害＝特別な人”であるかのように扱われてしまったとのこと。「LGBTは遠い存在ではなく身近な存在だと伝えたいという思いで本を書いたのに。」性別のことから逃げたい気持ちで海外に出て、やはり入国審査などで女性なのか男性なのかと揉めてしまう。そこで「場所ではなく、今いる場所を生きやすく変えていこう」と、現在の“トランスジェンダー活動家”を始めたと言われました。

【LGBTって何だろう？】

「カラダの性、ココロの性、スキになる性、表現する性など、様々な要素の掛け合わせによってその人の性が成り立っています。しかも見た目ではわかりません。」と、図やご自身の身近な方の写真などを示しながらわかりやすく説明していただきました。「LGBTの方に会ったことがないのではなくて、気づかなかっただけかもしれませんが。」

性的少数者の総称として使われ、よく耳にするようになった“LGBT”という言葉ですが、最近ではもう1つ“SOGI(ソジ)”という言葉も並行して、広く性自認や性的指向に関するということという意味で使われます。

“ソジハラ”もセクハラやパワハラ同様に問題になっていることも話されました。特に杉山さんのようにトランスジェンダー当事者の方は、見た目と書類上の性別が違うために、あらゆる場面での困りごとがあるそうです。学生時代は、制服、プールの授業、修学旅行のお風呂など。社会人になってもトイレ、投票所の受付、入国審査時の体験を語っていただきました。あわせて、世界的に見て日本は戸籍の性別変更の要件が厳しいことも説明されました。

【多様な人々が暮らしやすい社会のために】

「LGBTはアイデンティティーの話で、子どもの頃からしっかり教えていかなくてはいけない。個人的にどう思うかというところまでは介入できないが、人前でどう振舞うか、どういった発言をするのかということは、マナーとして教養として身に付けておくべきこと」と呼びかけられました。

さらに「遠い存在ではない、身近にいるかもしれないLGBT当事者のために周りの人ができることは、最低限の知識を持つことと話し合う姿勢・話をきく姿勢“ウェルカムカミングアウト”が一番大事。」「当事者があなたにカミングアウトするのは、あなたを信頼している証です。ぜひ『話してくれてありがとう』と言ってあげてほしい」とメッセージを送られました。

参加者の声

- ・性的問題について、自分が「気付かない」だけでもっと高い確率でいらっしやることを知れて、よい機会になりました。
- ・個人的考え方とは別に、振舞い方もスキルの1つという言葉が印象に残りました。
- ・一人ひとりに人権がある事をしっかり自覚して、人と接して生きる心がけが大切と感じました。人権問題はなんとなん難しいけど、人間性の尊重に尽きると思います。



佐賀市女性の活躍推進セミナー

～女性議員にきいてみよう！ 仕事のこと、生活のこと～

■開催日：平成31年1月19日（土）

■会場：ほほえみ館

平成30年5月に「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が施行されたことにより、政治分野での女性の活躍を促す機運が高まっています。とはいえ、佐賀市議会では現在、議員35名中女性はわずか3名です。

セミナーでは現職の女性議員3名をゲストに迎え、「議員」という仕事の内容を紹介していただき、さらに私生活との両立についてフランクに話していただきました。

また、参加者からも議員の方への色々な質問や意見が出されました。



しらくら かずこ
白倉 和子さん



やました あきこ
山下 明子さん



とみなが あけみ
富永 明美さん

★議員になったきっかけは？

- ・子育てしながら働くことは大変であると声を上げたかったから
- ・生活の中で不便だと思うことを変えていくための多様な方々の声を届けたいと思ったから
- ・当時出席した会議で、「女性の意見は十分にきいたので、後は議会で決めます」と言われたから

★議員としての喜びや苦勞は？

【喜び】

- ・自分の提案した政策が実現した時
- ・地域の人からの「ありがとう」の言葉
- ・行事、勉強会での出会いや人とのつながり
- ・皆さんからの励まし
- ・声を上げ続けたことで、制度が前進していること

【苦勞】

- ・本議会で女性を軽視した発言をされたこと
- ・視察先の酒の席で絡まれたこと
- ・身内の危篤に出張中で、何とか最後に立ち会うことができたこと



★男性の家事に関する考えは？

- ・家事が未熟だった夫には、感謝の気持ちを伝え続け、上達してくれた。
- ・できる人がやるスタンス。
- ・女性が仕事に出て、男性が家事をしている姿を小さいころから見ていると、子どもは自然とそうになっていくと思う。

★私生活との両立の工夫は？

- ・キャッチフレーズは「家事は適当、約束は守る」
- ・色々な人の力と知恵を借りる
- ・上手に人に甘える
- ・完璧を求めない・気にしない・がんばらない
- ・食事は作り置きをしている
- ・リフレッシュ（読書、演劇鑑賞、温泉）



▲参加者からも積極的に意見が出されました

「女性議員を増やすために何が必要か」というテーマについては、会場から「女性自身が家庭の事情を言い訳にすることなく、率先して勉強する」「社会で女性議員の子育て等を支えるシステム作りが必要」などの意見が出ました。

また、勇気ある一歩を踏み出してほしいという現職議員からの力強いメッセージも送られました。

【参加者の声】

（一部抜粋）

- ・ハードルが高く生活との両立が難しい職業と思っていましたが現役で工夫されながら両立されている話を伺いもっと身近な存在だと思いました。女性が活躍するためには男性の理解が必要だと心底思います。男性の意識改革が必須。
- ・女性が活躍する社会は、平和な社会と信じています。
- ・議員という職業が将来の夢となってもらえるように中学校や高校でもこのような講演の機会があればいいなあと思います。

【取材を終えて】

意思決定の場に女性がいるのは大切です。先駆的な役割を担われている3人のお話からは、確実に男女共同参画社会の足音が聞こえました。

矢ヶ部 ひとみ

平成30年度ワーク・ライフ・バランス推進研修会公開セミナー

社員が辞めない、働き続けたくなる！ “人を活かす”働き方改革とは？

■開催日：
平成31年1月30日（水）

■会場：
佐賀商工ビル 7階大会議室

待ったなしの「働き方改革」が迫られる今。人と組織の持続可能な成長のための神髄は“人材活性”にあった…！

20年以上前から、子育てしやすく働きやすい職場風土の醸成に率先して取り組んでこられた株式会社ふくや前社長・川原正孝さんをお迎えし、組織の生き残り戦略としての「働き方改革」のヒントを語っていただきました。



【講師】

かわ はら まさたか

川原 正孝 さん

株式会社ふくや 代表取締役会長

1950年福岡県生まれ。1973年福岡相互銀行(現西日本シティ銀行)入行後、1979年(株)ふくや入社。ふくや入社後は女性の継続就労支援や職場風土改革を断行し、1997年社長就任。2002年第1回福岡県男女共同参画企業賞受賞。2003年福岡県子育て応援宣言企業第一号として登録。2017年から現職。社員の成長と幸せを大切に“人を活かす”経営が話題を呼んでいる。

川原会長は「父が昭和23年に、大企業がしないことやできないことを行うというゆるぎない信念をもち創業。母は客を大事にすることをモットーにし、客にお茶を提供し客から商品の感想を聞いたり、商品の説明をしたりして、コミュニケーションを大事にしました。接客のポイントは、社員が感性を高め、客と密接なコミュニケーションを図ることであり、まさに営業の基本です。社員が接客のノウハウを自分で気付き、考える手法を取り入れ、人材育成をしています。」と語られました。

女性が結婚・出産で会社を辞めることなく働き続けられるように、育児休業制度を平成4年から取り入れ、現在は取得女性の全員が会社に戻るとの報告でした。また、社長時代には自ら「誕生日カード」を書いて社員一人ひとりに渡していたことや、全社員約200名の家族構成まで把握したエピソードをお話されました。

社員のことを熟知することが大切で、日頃からコミュニケーションを取っておくことが重要であると述べられました。

さらに、社員がPTA活動や地域のボランティア及び自治会役員等を担うことも奨励し、地域とのつながりが持てて、社員には好評であることが報告されました。

最後に、強い会社とは

- ①利益を上げ社員を守る
- ②利益を人のために使う
- ③社会の変化に対応できる
- ④進化できる
- ⑤元気で楽しく働ける
- ⑥正直である
- ⑦環境にやさしい
- ⑧社員が経営方針に沿った選択をすることができる

基調講演の後の第2部では、株式会社サイゼリーニングの高見真智子さんをコーディネーターに「先進企業の取組事例から考える自社の働き方改革」というテーマでワークショップを行いました。参加者同士が各グループで意見交換しながら、各社の課題を洗い出して解決策を探り、人を大事にし、人が組織を想う働き方改革に向けての方策を考えました。熱心な意見交換で、会場は盛り上がりました。



▲第2部のワークショップの様子

参加者の声

- ・業種は違っていたが、言葉を置き換えると相通じることがあり、ぜひ社員に話したい。
- ・実践にもとづく話で、非常に参考になった。
- ・社員ともお客様ともコミュニケーションをとることがどれだけ大切かあらためて認識できた。

【取材を終えて】

社員を家族のように想い、それぞれの成長と幸せを第一に考え、“人を活かす”経営の在り方について熱心に話される川原会長のお姿が印象的でした。

佐賀市内の企業でもこの想いが広がることを願います。

椛島 陽一郎・草場 栄美

『日本女性会議2018 in 金沢』参加報告

平成30年10月12日・13日、石川県金沢市で「日本女性会議2018 in 金沢」が開催されました。市民代表として参加した梶島陽一郎さんと人権・同和政策・男女参画課 芦原美保の報告です。

報告①:「働き方」分科会

日本のこれまでの労働環境を女性が変える、女性も変わる～皆が幸せになれる働き方への転換～

講師・パネリスト:大槻 奈巳さん(聖心女子大学人間関係学科教授)

パネリスト:近藤 宣之さん(株式会社日本レーザー代表取締役会長) / 高 由紀さん(エキスパート・フラップ株式会社代表取締役)

大槻氏はミニ講演で以下のような基調提案をされました。

- ①「キャリア・切り拓く力」を身に付け、社会の構造を知ることが大切。
- ②性別職務分離が行われているため、女性はスキルを身に付けられない状況がある。職場そのものの在り方に女性が仕事を続けていけなくなる構造があることが問題。
- ③「真の女性活躍のために」女性が現在の男性の基準に沿って仕事をして管理職になっていくことが女性活躍推進ではない。男性の長時間労働を前提とした働き方をしている場に女性が参入しても誰も幸せにはなれない。「女性の活躍推進」や「働き方」改革が叫ばれている現在、男性の働き方と女性の働き方をセットにして考えることが必要。

近藤氏は女性が働きやすい会社経営の取組から女性が管理職として成功している事例を報告されました。働き方改革は、まず社員満足からという信念で、社員一人ひとりと

じっくり面談を実施し、個々の社員に向き合った人事をされており、これまで25年間の経営で結婚や出産を理由に会社を辞めた女性はゼロという報告でした。

高氏は自身が関わっている会社の事例を挙げ、女性自身がスキルアップし、上司に自分のやりたいことを意志表示することの重要性を力説されました。

女性が働きやすい職場づくりをするためには、お互いを受け入れ、リスペクトするという方針をトップが社員に示し、相互理解のためのコミュニケーションが大切であるとまとめられました。



この社会にはまだ女性への差別や偏見がある分野が残っています。女性が様々な場面で「普通」に活躍することができる社会が早く訪れることを切に願います。

(梶島 陽一郎)

報告②:「政治への参画」分科会

議会の景色を変えてみよう～2019年 統一地方選 変えるのは、今～

私が参加した分科会では、女性で首長を経験された白井文さん(前尼崎市市長)、女性議員の割合が高い市町の議員である吹春やすたかさん(東京都小金井市議)、戸田靖子さん(大阪府島本町議)のパネルディスカッションが開催されました。選挙に挑戦したきっかけは様々でしたが、「社会に貢献したい」「自分の生活を何とかしたい」という思いは共通しているように感じました。

議員に必要なのは、何より“市民目線”だそうです。市民の半数が女性なのに、男性ばかりの議会では、

よいまちづくりはできません。男女共同参画担当として、覚悟と勇気をもって議員に挑戦する女性を増やすことができるような取り組みへのヒントをもらうことができました。

(芦原 美保)



▲梶島陽一郎さん(右)、芦原(左)

編集後記

山田亮さん、杉山文野さん、川原正孝さんは「コミュニケーション」の大切さを語られました。誰もが暮らしやすい男女共同参画社会の実現のためには、職場でも家庭でも友人との間でも、お互いをわかろうとすること、想いを伝え、感謝することだと感じました。

編集委員

今町 真由美・梶島 陽一郎
草場 栄美・矢ヶ部 ひとみ

※編集委員は、市民の方にご協力いただいております。

「ぱすぽーと」に関するご意見・ご感想をお寄せください。

発行

佐賀市 市民生活部
人権・同和政策・男女参画課

〒849-0919

佐賀市兵庫北三丁目8-36 (ほほえみ館2階)

TEL 0952-40-7014

FAX 0952-34-4549

URL <http://www.city.saga.lg.jp> (佐賀市HP)

E-mail jinken@city.saga.lg.jp

【お詫びと訂正】前号の「ジェンダー川柳」の出典元を記載しておりませんでした。出典元は、「青森県男女共同参画センター、大和高田市、しまね女性センター」です。関係各位の皆様にご迷惑申し上げます。

この情報誌の単価は 24.6 円です。

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。